

22 透析患者の体調管理指導の取組み

医療法人 金剛 柏原クリニック

浅野 茂子 内山たか子 槇石 理枝
 石川いく子 遠藤 直美 小松 緑
 川久保宏也 松田 知佳 清沢 由絵
 水上 悦子

I. はじめに

透析患者のQOLと生命予後の向上には、合併症の予防が重要であり、患者の体調管理における指導が大切である。

当院では、患者の検査結果の理解不足や、医療スタッフの経験の差により、一貫した指導が出来ないことが問題であった。

そこで患者と医療スタッフ双方が可視化できる体調管理ファイルを作成し、それに基づきチーム医療による指導をしたので経過を報告する。

II. 透析患者の体調管理目標ファイル作成と患者指導

昨年5月に透析患者の体調管理目標用紙を作成し、検討を重ね現在使用の用紙を基準にして指導を行なっている(図1)。

心血管系合併症の進行予防に重要なリンの管理と高カリウム血症についての注意を促すため、変化や目標値を維持できているか見てわかるよう血中カルシウム、リン、カリウム値をグラフ化し、継続して経過を見て指導できるよう1年分の記載とした。

グラフの下には透析前の血圧、現在のドライウェイト、透析患者の食事療法基準より算出した1日の摂取量を記入し、毎月の検査結果は台紙に貼り、ファイルに取り付けた。

浅野 茂子 〒399-8304 安曇野市穂高柏原 2849-1

医療法人 金剛 柏原クリニック 0263-82-7222

看護師がファイルを患者に渡す際、体調の変化や食事内容、内服薬の服薬状況を確認し医師へ報告、栄養士へ連絡した。血中リン、カリウム値の高い患者には危険性を説明し、原因や改善策を話した。

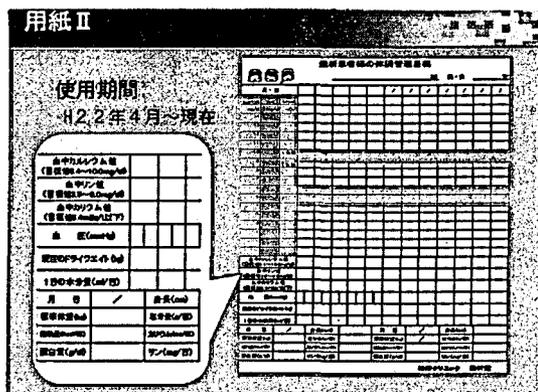


図1 透析患者の体調管理目標用紙

III. 症例示

1. 症例1(図2)

38歳 男性 透析歴 6年

腎移植を希望されており、体調管理の重要性を説明したところ、栄養指導に熱心に参加し、体調管理に注意された。

食事記録から1日の摂取カリウム量が2,200mgと多いため、カリウム制限の指導を行なった。特に、嗜好品の缶コーヒーを飲むことが多いので

控えていただくよう話した。

昨年10月までは、透析前血中リン値が6.3~9.3 mg/dlと高く、血中カリウム値も高い月がみられたが、11月以降血中リン値は目標値を維持しており、最近では血中カリウム値もほぼ目標値を維持できている。(図3)。

服薬の確認をしたところ残薬はなかった。



図2 症例1 体調管理目標用紙

2. 症例2 (図4)

30歳 女性 透析歴 7年

理解力が乏しく、内服の必要性について理解されていない。

過去の外科的処置として、副甲状腺腫、左卵巢腫瘍、胃噴門部ポリープの切除を施行。

良性であるが腫瘍ができやすく、現在右卵巢囊腫も発生している。

透析前血中リン値が8.3~13.6 mg/dlと高く、昨年4月に本人と母親に栄養指導を実施した。また血中リン高値が続くと危険な合併症が起こることを説明指導したが、改善されなかった。

食事記録をみると市販品が多く、残薬も多いが

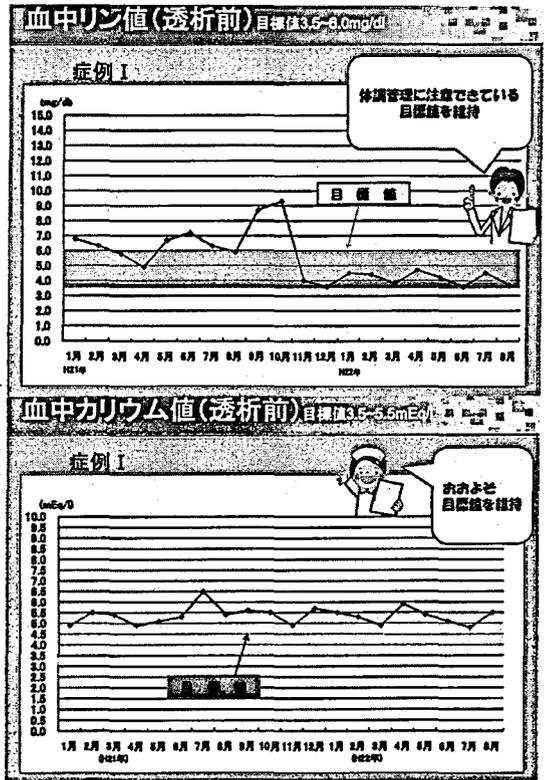


図3 症例1 血中リン、カリウム値の推移

特にリン吸着薬の内服忘れが問題であった。

まず内服を確実にこなすことを目標とし、指導を行なった。携帯電話を常時持ち歩いているため服用時間にタイマーをあわせ、アラームにて服用忘れを予防した。

その結果残薬は減少し、透析前血中リン値も下降傾向となった。

透析前血中カリウム値は、ほぼ目標値を維持できていた。(図5)

体調管理ファイルについての意識調査では、見やすくわかりやすいと評価され、自分の体調管理を注意するようになったとの回答があり意識付けされてきていることがわかった。



図4 症例2 体調管理目標用紙

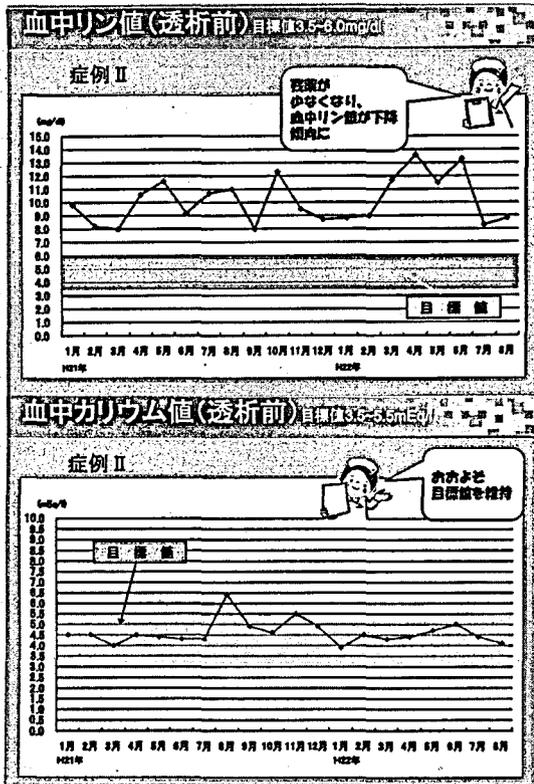


図5 症例2 血中リン、カリウム値の推移

IV. 当院維持透析患者 48 名の透析前血中リン値 血中カリウム値の推移 (図6、図7)

体調管理目標ファイルを作成し患者指導に使用したが明らかな血中リン値の改善はみられなかった。全患者の残薬確認を行なったところ、残薬の多い患者は血中リン高値が多かった。血中カリウム値は、食事内容を注意している患者が多く目標値を維持できている患者が94%であった。

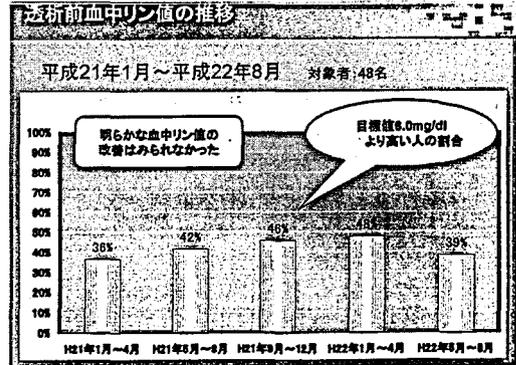


図6

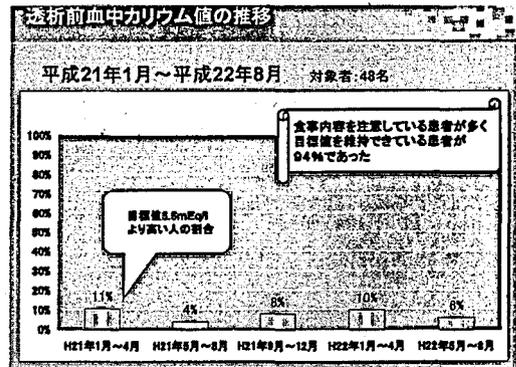


図7

V. 患者意識調査 (図8)

体調管理目標ファイルの使用における患者意識調査では、自分の体調について注意するようになった患者が全患者の52%で約半数は以前から注意

しているため変わらないという回答だった。
 また体調管理ファイルを必要であると感じている方が多く、血中リン、カリウム値のグラフは、毎月の変化が見てすぐわかるため目標ラインより高い時は、注意するよう意識付けになったとの感想があった。

しかし、見やすくわかりやすいとの回答が多い中、11%の患者が理解できていないため、更に見やすいよう改善していく必要がある。

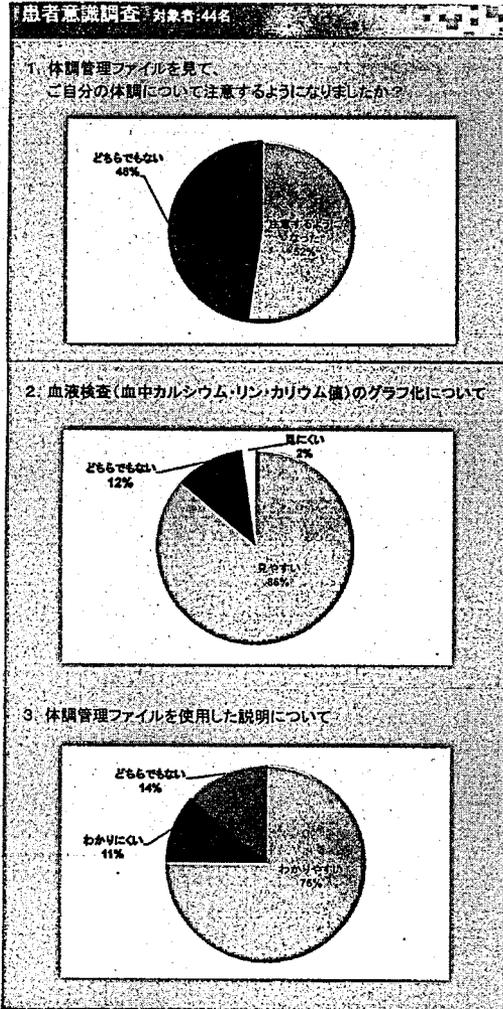


図8 患者意識調査

VI. まとめ

透析患者の個人的体調管理目標ファイルを作成した。これに基づいた指導は、患者や透析スタッフの意識向上につながった。

また、ファイルの使用検討により、透析スタッフと栄養士の情報交換が密となり、多面的に患者情報を得ることができ、患者指導に生かされた。

しかし、今後残薬の多い患者の服薬管理が指導課題である。理解力の乏しい患者や高齢者に対しては、家族に働きかけ指導していくことが必要である。

今後も、医療スタッフの連携をはかり透析患者に目標や希望を持っていただき、意欲が高められるような援助やアドバイスを提供できるよう努めていきたい。

参考文献

- 1) 日本医学会雑誌第97巻第5号
 成人の慢性腎臓病の食事療法基準
 (日本腎臓学会 2007年)
- 2) 透析療法ネクストIV 医学図書出版株式会社